

令和4年度 自己評価計画書(中間報告)

石川県立ろう学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	分析及び今後の課題
1 授業実践力の向上	①手話力を高め、聴覚障害教育の専門性の向上を図る。	○研究研修課	令和3年度児童生徒のアンケート結果より中学部や高等部の生徒は手話を使った授業がわかりやすいとの回答が多かった。しかしながら、教員が言語としての手話の知識やスキルについて研修する機会が少ないため、単語や文法について学べる研修講座を定期的に通講し手話力を高めていきたい。	【成果指標】 手話講座を月に1回行い、初級コース・中級コースに分かれて受講する。担当する幼児児童生徒とのコミュニケーションを豊かにし、手話力を高めることができた。	手話力が向上したと思う教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員90% A評価	講座を2コースに分けたことにより、中級コースでは役割の切り替え、位置を決めて表現することなど、一歩進んだ内容を学ぶことができたという意見が多かった。また、中級コース受講者の中には、日本語の意味に準じた表現を子どもに指導した経験のある教員もいた。授業や日常生活において、幼児児童生徒とコミュニケーションをとれ、教員自身の関わり感にあまりないという意見も聞かれた。一方で、子どもたちの手話を読み取れているか、子どもに本当に伝わっているか不安という理由で、まだまだ学習が必要と感じている教員もいる。継続して講座を開くことで、自信を深められるようにしたい。
	②GIGA構想の取組みを取り入れた研修や教材研究を行い、授業力の向上を図る。	○ICT推進委員会	令和3年度の児童生徒のアンケート結果からモニターやICTを活用した授業がわかりやすいとの回答を得ている。1人1台端末の有効な活用方法について昨年度得た知識やスキルを基に、研修や個々の教材研究、情報交換を重ね、授業力向上につなげていきたい。	【成果指標】 児童生徒の1人1台端末の活用に関して、校内研修や教員間の情報交換等を通して、自身の教材研究や授業づくりに活かし、主体的・対話的で深い学びの実現のための授業改善に取り組むことができた。	研修や教材研究から得た知識やスキルを授業に活かすことができたと思う教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員73% B評価	校内ICT二研修会への参加や他の教員の授業を参照することによって、1人1台端末の活用の仕方を知り、実践できたという意見が多見られた。一方で、児童生徒の実態に合わせた指導が難しい、使い方を知らないなど実践するまでには至っていない、等の意見もあった。今後はアプリの使い方の研修と並行して、具体的な授業場面などで使おうと考えていく内容も取り入れることで、各自の授業において、児童生徒がICT端末を使って学びを深められるような授業改善につながるようになっていきたい。
2 安心・安全な学校づくり	③SNSやオンラインゲーム等において保護者が捉えている課題とその解決に向けた工夫を学校と共有するとともに、安全にインターネット等を使用する手だてを情報共有し連携して取り組む。	○指導課	令和3年度の保護者のアンケート結果より、学校で取り組んでいることが十分伝わっていないことが伺えた。一方、学校も保護者のニーズが把握できていない状況がある。また、本校の生徒たちにとって安心安全な将来に向けて活用力を高めていく必要のある課題でもあり、家庭と連携し継続していくべき取り組みである。SNSやオンラインゲーム等に関して保護者が家庭で改善が必要と感じていることを学校が把握し、ともに解決に向けて検討し取り組んでいけるようにすることが大切だと考える。保護者のニーズを把握するためのアンケート調査や課題について共有する機会を設定したい。	【成果指標】 子どもの実態や課題を保護者と情報共有し、保護者のニーズを踏まえて個々の児童生徒に応じた指導ができた。	保護者のニーズを踏まえてSNS等の指導ができたと思う教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員97% A評価	日頃から各部教員間で子どものことについて情報交換しながら、それぞれの場で指導することができている。担任は保護者と子どものことで情報交換や相談、連携を取りながら指導に当たることができている。引き続き、子どもの実態と保護者のニーズを捉えながら、丁寧に目の前の子どもたちへの指導に当たっていくことが大切である。
				【成果指標】 時間やルールを守って、オンラインゲームやSNS、インターネットを利用することができた。	SNSやオンラインゲームに関する課題が改善したと回答した項目が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	児童生徒91% A評価	概ね時間やルールを守って、利用できているという回答だが保護者から時間やルールを決めても守れないという意見もあり、オンラインゲームやSNS、インターネット利用にあたっての指導を子どもの発達段階や実態に合わせて2学期中に実施していく方向で検討していきたい。
				【成果指標】 子どもの実態や課題を学校と情報共有し、家庭で安全にインターネット等を使用することができた。	学校とともに課題を共有し考えることを通じて改善に向けてのヒントが見えた保護者が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	保護者95% A評価	「安心安全な学校づくり」を目指し、子どもの実態や家庭でのインターネット等の使用に関する課題をアンケートで確認し、1学期末懇談で担任と意見交換、相談と共有することができた。また、夏休みに入り、育友会と共催で講演会を実施し、家庭での課題改善に向けたヒントになった。引き続き、保護者と子どもの課題について情報等を共有しながら、一緒に取り組んでいくことが求められる。
3 キャリア教育の推進	④本校キャリア教育全体計画と個別の教育支援計画の目標及びキャリアパスポートとの関連付けを行い、個々のキャリア発達を促す。	○進路指導課	昨年度、本校のキャリア教育全体計画が作成され、個別の教育支援計画の個別の目標との関連について保護者が理解できるよう努めた。今年度から小学部、中学部、高等部では、児童生徒がキャリア教育における自分の目標を確認し達成に向けて取り組んでいけるよう、キャリアパスポートを作成する。児童生徒のキャリア教育の目標の意識向上やその姿を保護者に伝えていきたい。幼稚部では、昨年度に引き続き、発達年齢に応じたキャリア発達を個に応じて促していきたい。	【満足度指標】 キャリアパスポートの活用や授業等においてキャリア教育の視点をもって指導する。	キャリアパスポートを活用や授業等で個別の目標とキャリア教育における目標を関連付けた指導をした担任が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員80% A評価	キャリア教育の視点を元に、各自の目標を意識し、周りの状況に応じたコミュニケーションを取るよう声かけをするなど、計画的に取り組むことができた。今年度からの取り組みであるため、各部での効果的な活用例について情報共有する必要がある。
				【成果指標】 授業やキャリアパスポートの作成及び活用を通して、キャリア教育の視点で自分の目標を意識できた。	自分の目標をキャリアパスポートの作成等を通して確認できた児童生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	児童生徒76% B評価	今年度からスタートしたキャリアパスポートをそれぞれ意識し始めていたようである。各学部で使いやすいように作成されたキャリアパスポートではあるが、実際に使ってみて活用しやすい時期であったり等の工夫は必要であるようであった。今後、有効な活用例を共有する必要がある。
4 業務改善	⑤マニュアルを基に平準化や効率化を目指し業務を遂行する。	○校務会	本校には課の業務のマニュアルが十分整備されていないため、令和3年度に仮作成をした。異動がなく同じ業務を長年担当しているケースも見られる。マニュアルを活かしながら、組織改編や異動等で業務内容が変わっても、平準化し効率的に分業業務が遂行できる体制づくりを進めたい。	【満足度指標】 懇談時等に担任から、キャリア教育の目標に対しての子の成長についての説明を受け、成長を確認できた。	個別の目標と関連したキャリア教育の目標に対して子の成長が感じられた保護者が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	保護者100% A評価	普段の様子やコミュニケーション面での変化から、子どもの成長を感じられたり、キャリア教育への取り組みについて教職員からのわかりやすく説明されたことから高い満足度が得られたと考えられる。
				【成果指標】 仮作成したスケジュールやマニュアルを基に業務の平準化と効率化を意識して業務を遂行できた。	スケジュールやマニュアルを基に業務の平準化と効率化を意識できたと思う教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教員74% B評価	昨年度までに行なった担当業務の平準化や各課マニュアルの作成を経て、業務の効率化に対する意識は高まっている。学校全体のバランスを考慮するの見直しは必要であり、今後とも課の枠を超えて協力していく体制を意識したい。年度末に向けてスケジュールやマニュアルを見直ししていく。